

# アカホシカメムシの図鑑作りたい！

那覇市立真和志幼稚園（沖縄県那覇市）

[5歳児]

子どもたちが沢山の“アカホシカメムシ”を見つけた。まだ正式な名前を知らず、みんな“赤ムシ”と呼んでいた。背中に顔の模様があることに気付き、“赤ムシ”の背中の顔がみんな同じか調べるようになった。

## “赤ムシ”の背中はお顔みたい

A 児「先生～、みんな背中にあるお顔違っていたよ！」

保育者「何でみんな違うのかな？」

C 児「男の子と女の子がいるからじゃない？」

B 児「そうだよ！人間もみんなお顔違うさあ～」

そしてB児がお母さんと一緒に正式な名前を調べてきて、「“赤ムシ”の本当の名前は“アカホシカメムシ”って名前なんだよ」と伝えると、「“赤ムシ”じゃないの？」とみんなビックリ！！



## “アカホシカメムシ”を育てたい！

A児が部屋で“アカホシカメムシ”を育てたいと言ったことから、みんなで食べ物についていろいろな図鑑で調べてみたが、“アカホシカメムシ”について、調べることはできなかった。

A 児「“アカホシカメムシ”がいた葉っぱとか、“アカホシカメムシ”がいた近くの葉っぱとかを虫かごに入れてみよう」

B 児「穴があいたのが食べる葉っぱってことだ」

2日後、小さな穴があいている葉っぱがあったが、いろいろな葉っぱを入れていたため何の葉っぱかわからなくなってしまった。



## “アカホシカメムシ”の図鑑作りたい！

B 児「これがわかったら、“アカホシカメムシ”の図鑑を作りたい！」

子どもたち「作りたい！」「“アカホシカメムシ”はどの図鑑にもなかったから作ろう！」「他のクラスには内緒だよ」

そこで、図鑑を作るためにはもっと“アカホシカメムシ”の事をいろいろ調べなければいけないということになり、その日から“アカホシカメムシ”の観察が始まった。みんなで集まる時間に、分かったことを伝え合うことにした。



## 《こんなことわかったよ》

- ・好きな食べ物は『モミジバアサガオの葉っぱ』
- ・濃い赤色と薄い赤色がいる → 濃い赤色（オス） 薄い赤色（メス）
- ・虹色の“アカホシカメムシ”がいる??
- ・お尻とお尻がくっついているのは結婚しているもの
- ・背中の模様は強い虫をびっくりさせるためにあるもう一つの顔で、模様はみんな違う

## 卵発見！！赤ちゃん発見！！から・・・

- ・“アカホシカメムシ”は、小さな黄色の卵を産む
- ・赤ちゃん“アカホシカメムシ”の背中には顔の模様がない
- ・赤ちゃんは、石の下などに隠れている



## 考察

子どもの気付きと疑問から図鑑作りまで進んでいく中で、クラス全体が“アカホシカメムシの研究”という一つのことに向かっていき、クラス意識がだんだん高まっていった。戸外遊びの後や朝の会、帰りの会等の集まりの時間を大切に、子どもたちがわかったことや気付いたことを発表したり、話し合ったりする時間を多くもつようにした。また、子どもたち自身も発表や話し合いの時間をとても楽しみにしていて、戸外へ出ると友達同士で“アカホシカメムシ”について調べている姿が見られ、この研究を通して一層友達関係が深まっていったと思われる。無理に答えを出させるのではなく、答えが出るまで待つことが子どもの主体性を育むために大切だと感じた。

図鑑作りまで辿り着くことは出来なかったが、子どもたちのペースに合わせて今後も進めていきたいと思う。

## みどころ

子どもたちにとって、背中に顔のある赤い虫との出会いは衝撃的で興味深く、図鑑に載っていなかったら自分たちで調べて作ってしまおうという気持ちにまで関心が高まっていったのではないのでしょうか。情報にあふれて知りたいことがすぐにわかるこの時代だからこそ、時間をかけてよく見たり触れたり確かめたりしながら、自分たちの言葉で表現し、知識を獲得していく。それは子どもの科学する心の大事なプロセスだと思います。